流域環境 デザイン スタジオ



H29-30 年度採択課題 「学融合・地域連携型の 流域リテフシー 教育プログラム開発」

Urban Watershed Design/Studio 2017-2019

47196-18 / S1S2A1 / 4 単位

気候変動や災害リスクに対して地域社会の社会的・生態学的弾力性(レジリエンス) をどのように高めることができるのか。この問いに実践的に答えるには、歴史的に多様 かつ複雑に連関しながら組み上がっている人一社会一自然システムを読み解く力と、そ の読み解きを支え、具体的に策を練るための技が必要となります。流域環境スタジオで は、流域という単位に着目し、「水系・大地の自然環境」、「人がつくったランドスケー プ」、「自然と人をとりまく社会」の3方向から総合的に人一社会一自然システムを読み 解くことを試みます。ここでいう流域とは、河口域を含む沿岸から、川、その集水域(森 や野原だけでなく、すでに市街化された領域も含む)全体のことを指します。そして、 その過程で描き出された社会的ニーズと応答しながら、人一社会一自然を結ぶ関係性を 豊かにしながら、社会的・生態学的弾力性を高めるための具体的な実践を、空間デザイ ン、社会デザインの両面から考えます。

地域の基盤を構築する地質・地形・水系をたどり、土地利用の変遷を捉え、社会と人 の営みを歴史的文脈も含めて描写してみませんか。都市では見えにくくなっている流域 とその多様な機能・社会空間としての意味づけを、豊かにできる実践を具体的に地域の 人びとと考えてみませんか。その探索の過程は、文理融合の学問的営みとは何か、とい う問いにもつながっているはずです。

** 副担当教旨



対象地一神奈川県鎌倉市滑川流域

旧鎌倉町の範囲にほぼ相当し、下流に広がる歴史的市街地とそれを取り囲む谷津を特 徴とする。滑川は延長 6.3 キロメートルの二級河川であり、朝比奈峠を源流として鎌倉 市街を流下して相模湾にそそぐ。森林のほとんどは歴史的風土保存区域もしくは特別保 存地区に指定されており、歴史的風致の点から保護されている。一方で平坦地や谷底は 上流までほぼ市街化されており、まちなかの自然を読み解くことが難しくなっている。 また、内水氾濫や津波浸水のリスクも存在しており、レジリエンスの向上が望まれる。





スタッフ・主担当教員















長谷川孝一

何が身につくのか

- ・流域に関する地学的理解 (水系や地質について)、空間 形成に関する理解(景観の変遷や緑地環境保全の仕組み)
- ・水文、土地利用に関する GIS の分析手法
- ・社会調査の手法、社会的ニーズの捉え方
- ・分野の異なる相手とのコミュニケーション能力、課題の 同定・分析・提案に関する一連のプレゼンテーション能力 など



スケジュール *原則金曜 4-5 限(14:55-18:35) に環境棟 5 階講義室で行いますが、それ以外の変則的な日程(現地調査等) があります

April			May	/			Ju	ne				July	/	Au	g.	Sep.			Oct.	
	20 21	27	1	1 1	8 25	26or 27	1	8 1	516or17	22	29	6	13	<			->	26	13	
	現地見学会	グループ分け		グループワーク1	グループワーク3	現地調査1	プ	グループワーク5	ガレープフーク6	グループワークフ	グループワーク8	中間発表@鎌倉	夏季調査計画発表		夏季調査・プレゼ	ン作成		学内プレ発表会	最終発表@鎌倉	

現地見学会と グループ分け



流域を 見る・感じる

予備知識をあえて持たず 現地に赴き、対象地が抱 える課題やポテンシャル をつかみます。その後 個々人の興味を発表し、 興味に応じたグループを 複数作ります。

グループワーク × 現地調査 × 中間発表





屋山・自然 歴史・文化 リスタ

×都市 地圏環境 水文·地形

地域がもつ課題やポテンシャルに基づき各グループが検討するテーマを設定し、 テーマに基づいたグループワークを行います。教員は上記3つの観点から助言しま す。グループワークでは、「議論→調査→分析→考察→議論・・・」と繰り返すこ とで設定したテーマに関連する知見を深めると同時に、地域を良い方向に導くため のデザイン提案を考えます (空間デザインでなくとも構いません)。 最終的には両 者を結びつけ、説得力のあるプレゼンを作成します。中間発表は鎌倉で行い、現地 の専門家や住民から意見をもらい、最終成果にフィードバックします。

夏季調査 成果まとめ



調査内容や 提案を磨く

夏季休暇を使い成果を まとめます。中間発表 で得た意見に基づき調 杳を積み重ね、また同 時にデザイン提案も洗 練させます。特定の作 業日は指定しません。

成果発表



成果の 現地への環元

夏季の成果を学内プレ 発表で発表し、修正を 行ったのち、現地鎌倉 で地元の方に対して最 終発表を行います。中 間発表からの改善につ いて評価を頂き、成果 を地元に還元します。